

令和4年度第1回茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

| | |
|---------------|--|
| 議題 | (1) 令和3年度実施市民活動推進補助事業報告会 |
| 日時 | 令和4年5月22日(日) 13時00分から15時40分 |
| 場所 | 市役所本庁舎4階会議室4・5 |
| 出席者氏名 | 大畑朋子 菅野敦 加賀妻英樹 船山福憲 海野誠 事務局4名(市民自治推進課) 三浦課長、小西課長補佐、服部主任、柿澤主任 (WEB会議により出席) 町田有紀 坂田美保子 市川歩 貴島義夫 山田修嗣 |
| 欠席者 | 原田晃樹 |
| 会議の公開・ 非公開 | 公開 |
| 傍聴者数 | 13名 |

○事務局

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまより令和3年度実施、市民活動げんき基金補助事業実施報告会を開催いたします。どうぞよろしくお願いたします。では初めに、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長より一言ご挨拶を申し上げまするとともに、各委員をご紹介させていただきます。山田委員長よろしくお願いたします。

○山田委員長

皆さまこんにちは。よろしくお願いたします。実施報告会ということですので、一度、あるいは数回お見えになっている方も多くいらっしゃるのでは、今日はリラックスして活動成果をいただければと思います。私は山田と申します。これより、市民活動推進委員会よりご挨拶を申し上げたいと思います。この市民活動げんき基金補助事業は、茅ヶ崎市の計画において、市民活動を推進するため様々な環境を整備して市民活動の活性化を図っていくことによって、まちが活力あふれる場所、地域社会となることを目的とした、平成17年度から実施をしている歴史のある事業でございます。これまで約170の事業に対して、支援、サポートをして参りましたが、その中には、団体として大きく発展され、自治体と協働推進事業や委託事業といった、さらに強い連携に発展をする活動事業もあるようです。そういった意味ではこの事業を、まさに元気の手がかりとして、発展していただくというのが今回の基金のねらいですし、またそのきっかけを一緒に考えていきましょうというのが、この報告会ですので、そういった中では皆さまの活動を、成果も含めて、それから日常の困りごとなども含めて、様々な角度からお話を伺うことができたらと思っています。私たち委員は事前に報告書と資料をちょうだいしておりまして、それを拝見いたしました。

それから皆さまからの発表を受けまして、今後の活動、それから皆さまの組織の発展に向けて、少しでも役に立つことができますように、また、茅ヶ崎市の市民活動を推進するという立場から、質問ですとかコメントを、この報告会の中でさせていただきたいと考えます。それでは今日参加しております委員を紹介したいと思います。名簿順で言うと、画面にどのように映っているかわかりませんので、名前を呼ばれた方は一言よろしくお願いたします。それでは大畑委員よろしくお願いたします。

○大畑委員

大畑と申します。よろしくお願いたします。

○町田委員

町田と申します。よろしくお願いたします。

○坂田委員

坂田と申します。よろしくお願いいたします。

○市川委員

市川と申します。よろしくお願いいたします。

○菅野委員

菅野と申します。よろしくお願いいたします。

○加賀妻委員

加賀妻と申します。よろしくお願いいたします。

○船山委員

船山と申します。よろしくお願いいたします。

○貴島委員

貴島と申します。よろしくお願いいたします。

○海野委員

海野と申します。よろしくお願いいたします。

○山田委員長

私含めて10名です。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。本日は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン併用での開催とさせていただいております。皆さまご協力いただきまして、ありがとうございます。

会場にいらっしゃる皆さまにおかれましては、マスクの着用、アルコールによる消毒等にご協力いただくようお願い申し上げます。

また、オンライン併用での報告会となりますので、接続の不具合等があるかもしれません。ご容赦いただければと思います。報告される団体の方と通信が途絶えるなど、通信が困難となった場合につきましては、報告順を入れ替えるなどの対応をさせていただく場合もございます。団体の皆さまにおかれましては、適宜、順番が変わる可能性もありますので、その際はご協力をいただければと思います。

また、本日はオブザーバー参加として、茅ヶ崎市市民活動サポートセンタースタッフの皆さま

まにもご参加いただいております。ご承知おきいただければと思います。

それでは本日の報告会の流れについて、簡単にご説明申し上げます。お配りしております市民活動げんき基金補助事業の冊子をご覧ください。この後、15時頃まで、令和3年度に皆さまが実施した市民活動げんき基金補助事業のスタート支援2事業、ステップアップ支援4事業について、ご報告をいただく予定です。発表の時間配分についてご説明します。最初に、報告団体より10分以内で事業についての説明をしていただきます。時間管理について申し上げますと、まず終了1分前に一度ベルを鳴らします。その後、予定時間の10分を経過したところで2度ベルを鳴らします。説明が終わりましたら、市民活動推進委員会委員からの質問やアドバイスなどを行います。こちらは、6分以内としております。説明中に2度ベルが鳴りましたら、途中であっても速やかに説明を終了していただくようお願いいたします。思いのこもった事業を短い時間でアピールすることは大変かと思いますが、ご協力をいただきますようお願いいたします。また、質疑応答の途中でベルが鳴りましたら、その質疑を最後の質疑とさせていただきます。皆さまについては、できるだけ簡潔なやりとりをお願いしたいと考えております。また、本日の報告会の様子につきましては、写真やスクリーンショット等で撮影し、市のホームページ、広報誌等に活用させていただく場合がございます。

あらかじめご承知おきいただけますようお願いいたします。

最後になりますが、この補助金は、市民活動げんき基金を原資とする補助金となっております。冊子の5ページから6ページにご寄附いただいた方々を掲載させていただいております。また冊子の裏表紙に掲載させていただいておりますが、当市の公共施設に設置しております自動販売機の売り上げの一部を、湘南ヤクルト販売様からこちらの基金にご寄付をいただいております。また会場にも募金箱を設置しておりますので、ご協力をいただければ幸いです。

それでは早速、順番に各事業の報告をさせていただきたいと思っておりますどうぞよろしくお願いたします。ふらっと南湖の松本さま。資料の準備等をお願いできますでしょうか。それでは、ふらっと南湖さまより、子どもとワークショップ×お話勉強会についてご報告いたします。よろしくお願いたします。

○ふらっと南湖（松本）

お願いたします。

今回、初めて市民活動げんき基金の補助をいただきまして、申請書を記入するところから、ちがさき市民活動サポートセンターの小山さんと相談しながらやってきました。それでは実施報告書に沿って話していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

南湖ハウスの活動は、設立当初は3人で考えてやってきました。去年の今頃、南湖ハウスは建設中で、7月にオープンしました。建設以前から見学会などを開催して、様々な方に関心を持っていただきました。まず三本柱の説明をさせていただきます。私は2003年に

里親登録をして、その頃から増え出している子どもの虐待を見過ごすことができず、活動を始めました。約20年、不思議だなと思いつながら自分なりの研究をしてきて、最後に自分自身の子育てや里子と関わる中で子どもには何が必要なのかということを考え続けてきた結果、何が人にとって必要かって言ったときに、育ちをずっと見守ってくれる人が必要だっていうのが一つの結論でした。親によっては病気だったり、経済的な問題やDVなどで家庭環境が違ったりする中で、子育てするのが困難な人も大勢いるということが分かって、簡単に虐待する親が悪いということは言い切れないなと思って、変化してきました。それで、そういう環境の母子をどうしたら助けられるかな、虐待死がなくなるかなと思ってるときに、子育ては1人でやるものではないということから、子どもサポーターを増やすことが大事だと思いました。一方で、地域文化交流っていうところがその地域の力がどうしても子どもを育てるには必要だっていうところで、どうしたら楽しく、深刻にならず、良い関係づくりができるかその中で子どもが育まれることが大事と考えて、地域の文化交流ということで、食事や様々な音楽もそうだと思うんですが、楽しく生きていくことが大事だということ、今の活動の形になりました。

活動としては、子どもの権利啓発活動という形で、ワークショップをやったんですけども、なぜ子どもの権利かっていったところがなかなか皆さま、大人もまだ十分理解してないと思うんですけど、よくよく虐待された子どもを深く読み解いていくと、生きる権利とか、基本的な四つの権利があるんですけど、生きる権利とか育てられる権利とか、守られる権利とか意見を表明する権利っていうのが、ことごとく奪われてきた子どもたちなんだなということがわかります。ですから、まず大人が子どもの権利的なことを知る必要があるなということで、子どもの啓発活動をしてきました。

コロナ禍により7月から8月ぐらいからやろうとしていた活動ができませんでしたが、3月31日にワークショップが1回できまして、参加者1組でしたが、すごく内容について考えていらっしゃる親子だなと思ったんですけども、お子さんからは、嫌なことを言われない権利ってあるじゃないみたいなことを具体的におっしゃっていただいて、お母さんからも、子どもの権利ってやっていいこととやられたくないことを、子どもが自由に選んでいいんだ、要は選択する権利、意見表明に触れられたことが、すごく共感できました。それから、南湖ハウス通信なんですけど、6月ぐらいから今もやってるのですが12号ができて、それで社会的養護というすごくわかりにくいものなんで、こういう形でいろんな活動を通して、社会的養護についてお話しています。

今回、3月はですね、社会的養護を卒業しなくてはならない月でどんな状態なのかっていうことを、3月4月5月の南湖ハウス通信でお伝えしました。

あと様々な方からタウンニュースさまも含めて、茅ヶ崎テレビや東京新聞からも取材をいただきまして、すごくありがたかったです。一番右のところは、お話勉強会の様子です。こちらは、南湖ハウスのリビングを使って、ご関心のある方に来ていただいて、一緒に勉強しました。

中央は、サポートとか社会的養護を卒業した子どもたちが作ってくれました。様々な方に出会えて、協力いただいて、あと一番下には庭に植えたじゃがいもが大きくなっているという状態です。

私が考えているのは、里親や子どもサポーターがもっと必要だと思います。この恩返しが循環する社会っていうのは、私自身、やっぱり日本語でも情けは人のためならずっていう言葉があるように、すごく循環を考えてやっております。里子を育てることで、自分や子ども自身が様々な方との出会いがあって人生が豊かになったと思います。他の里親さんはよくこういう自分が、関係が豊かになったっていう感想をおっしゃるので、共通できる場所だだと思います。子どもにとって見守ってくれる人が必要だということで、長続きする場所でありたいなと思ってます。

南湖ハウスが、地域にちょっとずつ増えていくことが、安心できる子どもの第3の居場所になっていくのではないかなと考えています。最後に今の活動を共有させていただきます。今年度も市民活動げんき基金補助事業の補助をいただきましたが、8月イベントも企画しておりますので、皆さまよろしくお願いいいたします。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございますそれでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いいいたします。

○山田委員長

ありがとうございます。それでは最後のフライヤーの表示がフォルダのままだったので、もう一度見せてもらえるでしょうか。

○ふらっと南湖（松本）

はい。7月2日、どちらも勤労市民会館なのですけども、里親子の映画と、私たちの対談を行う予定です。そこで様々な質問していただければと思います。当日は、社会的養護の関係でテレビとかマスコミへの出演が増えている方も招いてますので、お越しく下さい。

○山田委員長

ありがとうございます。それではこれより質疑応答の時間に移ります。委員からの質問、コメントなどがありましたらお願いします。

○坂田委員

ありがとうございました。とても関心のあるテーマで、ホームページをしっかりと拝見させていただきました。素晴らしい活動をされて、本当に感心しております。今回、事業の中では、子どもとワークショップ、それからお話勉強会が今回の市民活動げんき基金補助事

業で実施した事業ですね。非常に大事な勉強会をやっているのですが、子どもサポーター勉強会の参加者は同じ方なのでしょうか。

○ふらっと南湖（松本）

参加者についてはすぐに資料が出なくてわかりませんが、これは早稲田の里親研究会というのがあって、そちらの団体と一緒にやっています。

○坂田委員

ありがとうございます。

○ふらっと南湖（松本）

勉強会も私1人だと、もうだんだん難しいので、一緒にやっています。

○山田委員長

私から一つ伺います。今回この取り組みはスタート支援ということで、こうした活動とそれから組織のスタートを切っていただくっていうところだったのですけれども、その1年間の活動の報告ということの理解でしたよね。

そうしましたら、実際にどんな活動を通して、ご自身の団体の変化で何か感じ取るどころ、こういうとこ成長したなとか、こういう形にできてよかったなというところがありましたら、報告会でするのでお話いただいてもいいでしょうか。

○ふらっと南湖（松本）

わかりました。

この団体ができたのが、2020年の10月頃でした。私中心で始めて、南湖ハウスを作りました。クラウドファンディングもさせていただいて、かなり応援の声をいただきました。数ヶ月たったところから2人の女性たちが、自分たちで新たにやりたいっていう、南湖ハウス第2号のようなものをやりたいとおっしゃって、リトルハブホームという形って、茅ヶ崎で始めています。実際、詳しい活動内容はわかりませが、多分、三本柱を活かしながらやっていると聞いてます。

組織としての形も整えなければならないというところで、里親の方が入ってくれて、組織の立て直しをして、基本的な南湖ハウス通信を発信して、社会的養護に対する理解を深めていってもらおうということは続けていこうとか、三本柱で本当にいいのかとか、改めて今後の方向性を考え直しました。

やっていく時にまた変化はあると思うんですけども、やっぱり古くから応援してくださる方に、ここは一体何をしたいのかっていうことを何度も問われまして、私も本当に孤立の子育てはもちろん大事けども、孤立の子育てとか社会的養護はまたちょっと毛色が違

います。

最終的には、こどもの応援ということは変わらないんですけども、どっちが軸足かなっていったときに、やっぱり社会的養護が余りにも大切にされてない最たるもので、子どもとして、大事に扱われていない最たる人たちが社会的養護だと私は思えるので、彼らを幸せにすることが、日本のすべての子どもを幸せにすることに繋がると今はすごく考えていて、それがやっぱり、子どもの権利を守ることで、家庭内での教育的虐待という言葉もあるぐらいで、必ずしもDVと言うのではなく、余りにも自分の主張が強いお父さんお母さんによって、子どもが萎縮している家庭もあって、そういう子たちが自殺してるっていう現状が実はすごく多くなっています。

だから、すべての子どもが幸せになるというところを考えたときに、今の子どもの権利を、大人はまず学ぶことが大事だなと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。わかりました。そろそろ時間ですので、質疑応答は以上といたします。ありがとうございました。

○事務局

ふらっと南湖さまありがとうございます。続きましてママほぐさん、発表の準備をお願いいたします。それでは、茅ヶ崎市の産後のお母さんのためのポータルサイトについて、ママほぐさまから、報告していただきます。よろしくお願いいたします。

○ママほぐ（高村）

よろしくお願いいたします。茅ヶ崎市の産後のお母さんのためのポータルサイトを作成いたしました。

ポータルサイトは、NPO 法人セカンドワーク協会さまに製作を依頼し、昨年9月28日に公開いたしました。ポータルサイトは五つの柱で作成しました。一つ目は、産後ケア啓発のためのコラムの作成です。コラムは、お母さんや地域の方に向けて、母親が1人で子育てを頑張らなくていいことを発信しています。執筆してくださった方は、長年、茅ヶ崎市で分娩や産後ケアをされている齋藤助産院の齋藤先生、流産や死産をされたお母さんのケアサポートをされている茅ヶ崎市在住のすがさま、男性目線では、移動式駄菓子屋を営みながら日本の伝統を守っていく活動されている谷口さまなど6名が執筆してくださいました。二つ目の柱は、専門家による子育て情報を提供するコラムの作成です。コロナ禍では、特に外出は困難なことからネットに頼りがちになりますが、それに翻弄されず発信元がはっきりとした安全な知識を伝えることが必要です。執筆してくださった方は、地域で活動する助産師、離乳食の専門家、帝王切開カウンセラーなど、23名が執筆してくださいました。三つ目の柱は、子育て情報の可視化です。茅ヶ崎市は、魅力的な子育て支援団体

やサービスがあるのにもかかわらず、それを一括して見られるウェブサイトがなかったことから、一覧できるウェブサイトを作成しました。個人を含む 20 団体が掲載されており、現在は 25 団体が掲載されています。四つ目の柱は、開催告知と活動報告です。左側、イベントと書かれたものが実際のページです。イベントの枠内左側二つがイベントごとに行っている開催告知と、その隣のアイキャッチが集合写真となっているものがイベント終了後のもので、投稿記事内でも写真で当日の様子を紹介しています。最後に、五つ目の柱は、右側の賛助会員の募集ページです。応援して下さる方々や、初めてママほぐを知ってくださった方へ向けて、改めてどういった活動をしているのかを紹介し、どういったことへ寄付が使われているのか明記しました。昨年度は 13 名からの寄付金と 2 名から物品の寄付をいただきました。続いて、ポータルサイト普及のためにチラシの作成も行いました。左手は A5 サイズを 1000 枚、右手は名刺サイズを 1000 枚作成しました。配管場所は広報掲示板、コミセン、子育て支援センターなど行政関連施設のほか、市内の産科の病院や子ども食堂など市民自治推進課の職員の皆さまをはじめ、多くの方のご協力ですべて配架することができました。イベント等でお母さんに直接お渡しする機会があると、当日や翌日にポータルサイトの閲覧数がしっかりと上がることから、紙媒体の宣伝効果も十分にあることがわかり、増版して現在も繰り返し広報を行っています。続いて、ポータルサイトが公開されてから、いくつかのメディアや講演会に登壇することができました。写真左手は、ポータルサイトが公開した 2 週間後にタウンニュースさまが社会面と人物風土に掲載してくださった記事の一部です。右手は登壇させていただいた NPO サポート茅ヶ崎さんが主催する地域の居場所づくり交流会のチラシです。メディアや講演会で話す機会は、新たにママほぐを応援して下さる方が現れたり、同じ思いを持たれている方との出会いに繋がったり、非常に貴重な機会でした。こういった繋がりから、現在ママほぐで実際に活動して下さる方もいっしょに、ママほぐを取り上げてくださった皆さまへ、この場を借りて感謝を申し上げます。続いて、事業の参加人数と分析に入ります。集計データはリリース後から 3 月末までのものです。こちらの図は、サイトの集客力を把握するためのユーザーサマリーです。赤く囲っている数字をご覧ください。ユーザーとは、サイトに訪れた人の数を示し 1837 人となりました。その他セッションは 3235 人。ページビューは 9643 人となりました。最後に、ユーザーの満足度を測る指標として扱われる直帰率についてです。直帰とはサイト内で 1 ページしか見ずに、そのままサイトから出るというユーザーの行動を示します。直帰率の目安として、ウェブサイトの場合は 60% が一つの目安なり、低ければ低いほどよいとされているから、49.64% は非常に良好と言えます。次のグラフは流入元別データです。サイトにアクセスするユーザーの多くは、検索エンジンや SNS を経由しているため、どこからたどり着いたのかを知る手がかりになります。最も多い割合を占めるダイレクトは直接という意味ですが、QR コードを読み取った方もここに分類されるため、チラシから流入したことが考えられます。2 番目に多かったのは、ソーシャルです。こちらは、フェイスブックなどの SNS からの流入を指し 31% を占めました。

また、ポータルサイトを評価するために行ったアンケートの調査では、サイトの存在をどこで知りましたかに対し、インスタグラムが50%と最も多い結果となりました。これらを踏まえ、今後のSNSとポータルサイトを連携しながら発信していきたいと思います。事業の成果に入ります。ポータルサイトを見られたお母さんからのご感想の一部です。

いつもとても良い情報をありがとうございます。コロナ禍でママ友なども作りにくく、口コミなどもなかなかやれない中で、大変ありがたいです。このような活動に救われるママはたくさんいると思います。応援します。県外出身なので、こういう場を設けていただけるのはとてもありがたいですという声が寄せられました。また、アンケート調査で、サイトの総合的な満足度を教えてくださいという問いに対し、「良い」、「やや良い」を合わせると99%という結果になりました。

最後に、今後の展望です。まず一つは、子育て情報の収集と可視化を行っている「子育てナビ！INFO」ページとコラムを掲載している「子育てナビ！MEET&TALK」の充実です。「子育てナビ！INFO」ページは、手順ごとのユーザー数を見ると、2番目に高い割合を占め、ユーザーの関心が非常に高いことが想像できます。引き続き情報収集を行い、地域とお母さんを結ぶ役割を果たしていきたいと思っています。続いて、「子育てナビ！MEET&TALK」では、現場での何気ない会話から聞こえてくるお母さんのリアルな悩みや困りごと拾い、それについて掘り下げていく、アンサーコラムを掲載したいと考えています。アンケート調査でわかったことなのですが、専門性の高い困りごとのほかにも、部屋が片づかない、子連れだと思い通りの時間に開始することができないなど、生活に根づいた困りごとも多かったためです。実際にお母さんに会うことができる、私たちだからこそ聞こえてくるお母さんの声を拾い、より身近なポータルサイトにしていければと思います。二つ目は、今後もオンラインとオフラインの活動を合わせ、地域とお母さんを繋げることです。こちらのポータルサイトは、感染症が拡大する中で、居場所に来られないお母さんへのオンライン支援が一つの目標でした。昨年度中も緊急事態宣言などありましたが、その間もポータルサイトを通し、お母さんと繋がれたことは大きな成果でした。今後も居場所や産後ケア活動を継続して行き、そこにポータルサイトが加わることで多面的な子育て支援を行っていききたいと思います。少しスライドが多かったので早口になってしまっていて大変申し訳ありません。これで発表終了します。ありがとうございます。

○事務局

ありがとうございました。それでは、質疑応答に移ります。山田委員長よろしくお願いたします。

○山田委員長

それでは委員から何かあればお願いします。コメントでも結構です。お願いたします。

いかがでしょうか。どうぞ市川委員お願いします。

○市川委員

高村さん、こんにちは。私もですね、もう本当に10年も前になってしまうんですけども、市民活動げんき基金ではなくて、市民活動推進事業の方で子育て世帯向けのポータルサイトをやっていたんですけども、その時から大分時も流れて、予算の関係で終了してしまったんですけども、また新たに今の時代に合ったサイトを作ってくださいって、やっぱり私もちょっと心に引っかかってきたところというか、やっていた事業を終了してしまって、なので、すごく嬉しいなと思っております。コロナ禍でっていうところで考えると、すごく、一番必要だったものを、今の時代、特にこの2年前からの必要性ってすごく大きかったんじゃないかなと思います。私たちがやっていたころは様々なカテゴリに対しての活動をしていたので、特化してっていうのはなかなか難しかったんですけども、ママほぐさんは子育てやお母さんに特化しているので、仮に高村さまの子育てのステージが変わったとしても、次に、その団体で引き継いでいってくださる、事業として成り立っていくのかなんていうことも想像させられるというか、私が言うのも本当に何かおかしな話なんですけれども、長く続いていくといいなと思います。本当にこれからも頑張ってください。以上、コメントとさせていただきます。

○ママほぐ（高村）

市川委員本当にありがとうございます。本当に市川委員がされていたフボラボちがさきの復活を求める声が、とてもとても多くて、私たちも予算がない中で、どうやってそれを復活させていけばいいのかということを考える中で、全く同じ作りにはできないですし、市川委員たちがやられていた形には本当に遠いような感じですが、少しずつ情報を蓄積して、やっていきたいなと思っております。本当にこれからもよろしくお願いします。またいろいろ教えていただければとてもうれしいので、これからもよろしくお願いいたします。

○山田委員長

それでは他にも質問、コメントありますか。お願いします。坂田委員どうぞ。

○坂田委員

とても素晴らしいポータルサイトだったと思います。セカンドワーク協会さまでいらっしゃるかということですけども、とても読みやすく、サイトの作りも本当によくできていて、探しやすい、記事が見やすいです。こういう回答があったらいいと思うような作りになっていて非常に感心しております。コロナもあって、大変だったかと思いますが、これまでのご苦労などを伺いたいですけれども、よろしいですか。

○ママほぐ（高村）

そうですね。ママほぐ自体は始まって、6年になりますが、やっぱりそこに来るまでに関わりたいって言うてくださる方が、とてもたくさんいらっしやって、今も皆さまが取り上げてくださったりとかこうやってサイトができたりしたおかげで、専門家の方とか、手伝いたいです、やりたいですっていう声かけをかけてくださることが非常に多くて、講師の方たちは非常にたくさんいるんですね。なのでポータルサイトのコラムを書いてもらうこと自体は苦労はなかったんですけども、やっぱり予算がもともと結構ぎりぎりで、産後ケアの活動を行っていたというのもあって、予算というところが一番大変でしたが、関わってくださってる講師の方々に、これぐらいの少ない謝金しか出せませんが良いですかと、一人一人に連絡を取って、お願いした人のほぼ全員が書いてくださって、それにはとても感謝しています。このサイトは、私たちだけの力ではなくて本当に地域のお母さんや地域の専門家の皆さまが一体となってできたサイトだと思っています。本当に私たちの力だけではなくて本当に作ってくださった、NPOのセカンドワーク協会の四條さまを始め、私がやりたいと具体的にイメージしたものが伝わってるか分からないなか、四條さま方が拾って、見えるような形にしてくださったので、本当に様々な人に助けられたっていうのが大きく、完成したのを見てくださってることにに対しては非常に感謝の気持ちが大きいです。本当にありがとうございます。

○坂田委員

ありがとうございました。NPOで、参加と協力という言葉があるんですけども、まさに参加と協力できあがった活動だと感じました。今後も活動を続けていっていただけたら嬉しいなと思います。ありがとうございます。

○ママほぐ（高村）

どうもありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございます。質疑応答の終了の時間が来てしまったようですので、以上とさせていただきます。今の参加という意味では、このやりとりの中でも水平的に参加をするという繋がりと、それから、市川委員とのやりとりのような時間的に垂直的な参加という両面があり、大変すてきな印象がありました。ありがとうございました。

○事務局

それでは高村さまありがとうございました。続きまして、捨てられる動物たちの命を救うイベント「わんにゃんマルシェ」について、わんにゃんマルシェ実行委員会さまから報告させていただきます。準備の方、お願いいたします。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）

それでは令和3年度の市民活動げんき基金補助事業の報告をさせていただきます。わんにゃんマルシェ実行委員会の川上と申します。よろしくお願ひいたします。令和3年度の事業として、まずは、イベントの第9回わんにゃんマルシェの様子からご報告をしたいと思います。当初の予定では、コロナが落ち着いているといいなっていう希望的観測もありまして、コロナ以前と同じようにイベントができたらいいねということで、保護団体の譲渡会、あとは著名人の方のトークセッション、しつけ教室、飼い主のマナー教室、キッチンカー、物販ブースも出すという感じで、大きなイベントを予定しておりました。しかし、今年も緊急事態宣言や蔓延防止でイベントを開催することが難しい状況の中、実行委員一同、協議を重ねまして、前回と同様に、譲渡会を中心に会場を仕切って、規模を縮小しての開催となりました。実施日は3月27日。場所は第一カッターきいろ公園です。11時から15時での開催とさせていただきました。先にイベントの実績をご報告したいと思います。来場者数は入場にカウントした数だけで、773名。寄付金総額が22万6701円。この内、20万円を保護団体さまに寄付させていただきました。譲渡会のトライアル申し込みが、犬が12匹、猫が6匹となっております。これは、当日の会場の様子です。久々のイベントということもあり、また3月末で桜の季節ということもあって、お花見のお客さんがいらっしやって、公園自体本当にたくさんの方の来場者がありました。保護団体の譲渡会は会場を仕切って、そこに入場するために受け付けを設け、検温、消毒、名簿の記入、入場料をお1人100円いただいて、入ってもらうという形にしました。こちらは、わんちゃんの写真がたくさん出てます。あとはご来場いただいているお子さんたちと触れ合ったりとか、すごくほのぼのとした空気が流れたりしていました。譲渡会会場の外側はキッチンカーなどのお店を出していただいて、そこは誰でも入れますよという形にして、いろんな方にご来場いただいております。あとはいつもご協力いただいております、わんにゃんミュージックの皆さまですね。開催時間内ずっとすてきな音楽を流していただいて、会場を盛り上げていただきました。一番下の方に載ってるんですけど、国会議員の河野太郎さまがお見えになって、会場を見学なさってお話させていただいたりしました。譲渡会だけでも800名近くの来場者があって、そのほかに出店者さんや保護団体さんにもご協力いただいて、大きなイベントになったと感じます。本当に私たちだけの力では大きなイベントは開催できませんし、皆さまのご協力があってこそそのイベントだったと思ひ感謝しております。ありがとうございます。次に、イベントと並行して、本年度はわんにゃんマルシェのホームページを作成しました。こちらにもNPO法人セカンドワーク協会さまのご協力のもと、ホームページを作らせていただき、昨年末にホームページが完成しております。イベントの告知だったり、関連したコラムなどを更新して参りました。フェイスブックページとインスタグラムで情報を拡散して、多くの方に知っていただけたと思っております。こちらはグーグルからのアナリティクスの結果の表ですが、向かって左側がオープンから

イベント終了までの3ヶ月間でございます。右の上の方に伸びてるところがイベントに向けて少し右肩上がりに閲覧者数がどんどん増えてきてるんだっていうのがわかると思います。右側のグラフが、現在から過去3ヶ月間ですか、イベントを挟んでそのあとの様子です。イベントが終わってからは閲覧者数が少なくはなっていますが、やっぱり直帰率とかセッション時間数とかを見ていただくと、サイトにとどまってゆっくりされてる、サイトの中を見てくださってる方が多いっていうことがわかります。そして、それはサイトに関心を持って見に来てくださってる方が多いのではないかと考えております。またサイトの方から、今年ですね、イベントのボランティアさんを募集したり寄付金を募ったりしました。その結果ですね、ボランティアさんの応募が多数あって、4、5名の方にイベントを手伝っていただきました。寄付金も年間を通じて、ホームページの方から申し出があったので、ホームページの効果としては、なかなかよかったのかなと考えております。今年度もありがたいことに茅ヶ崎市市民活動げんき基金補助事業のご採択をいただいたので、令和4年度の活動は、今回と同じようにイベント開催を視野に入れつつ、命の大切さを考えてもらうための、動画を製作したいと思います。今年度は公民館とかコミセンとか様々な場所で命の教室を開催していけたらと思います。動物愛護の貢献やその命に一生責任を持つということを、一人一人に考えてもらえるきっかけになったら良いなと考えています。将来的には、今年度すぐについていうわけにはいかないとは思いますが、小学校とか中学校とかの授業の一環だったり、PTA活動とかに取り入れていただいたりして、子どもたちが命について考えるひとつのきっかけになってくれたらいいなと考えております。今後もわんにゃんマルシェの活動をご理解いただき、そしてご協力いただけることをお願いしたいと思い、報告を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしく願いいたします。

○山田委員長

委員から質問がありましたらお尋ねください。いかがでしょうか。お願いします。そうしたら、質問というよりも、個人的な関心に近いところでお尋ねします。昨年の1年間、それから今年度の事業展望をお話くださいます、いわゆる社会情勢ですね、こうした動物の命というものを大切にしようという社会的な情報は、以前に比べれば少しずつ広まっているという実感を持っています。そのような世の中の変化に合わせて、川上さまの団体の動内容も、少しずつ変わってくると思うんですね。そのような変化のきっかけになったようなできごととか、それからこんなことを次に展望しているとか、そのように思い至る変化のきっかけなど、その辺りをちょっとお話いただいてもいいでしょうか。

○わんにゃんマルシェ実行委員会（川上）

そうですね。わんにゃんマルシェというものの自体が、私たち実行委員もイベントをやるための実行委員という形で始まって、そのイベントがどんどん育ってきた。でも、コロナがあって、そのイベント自体ができないかもしれない、もしくは前回同様小さくしかできないとかっていう。イベントで集客し、来た人にパンフレットを渡したりとか、いろんなことを知ってもらうっていうためのイベントだったので、そこが一番の目標だったりしてたんですね。ただそれがなかなか人を集めちゃいけない、場所が使えないといったことがあって、じゃあ、いつ実施するみたいなところで紆余曲折したところがあって、今回ホームページを作らせていただいたっていうのも、やっぱりイベントだけじゃなく、違う手段で自分たちの活動だったり思いだったりを伝えていかなきゃいけないんじゃないかなっていうのがすごくあって、ホームページを作ろうかっていう話になりました。今年度ですね、動画を使って、命の教室をやろうかっていうのも、イベントだけでは伝えきれないところがあって、だったら直接訴えかけられる、規模は小さくなくても少人数でも回数重ねて、その少人数の方に対して、深く、よりわかってもらえるよう理解してもらえるような手段で伝えていかなきゃいけないんじゃないかっていうことで、今年は、動画を作ってそれを持って、命の教室など、いろんなところで開催させていただける機会があればと思っています。

○山田委員長

ありがとうございます。目標や目的を達成するためには、様々な入口が必要だったり、それから、入口が変化をしてそれに着実に対応していったりすることが必要だというのは、何か今日の共通のテーマが出た気がしています。大変興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。

○事務局

それではこれより休憩のお時間とさせていただきます。再開は14時14分からとさせていただきます。それまでにお戻りいただきますようお願いいたします。

○事務局

それでは、皆さまよろしいでしょうか。続きまして、みみとこころのポータルサイトについて、一般社団法人4Hearts様より報告させていただきます。準備をお願いいたします。よろしいでしょうか。それではよろしく願いいたします。

○一般社団法人4Hearts（那須）

4Heartsは、スローコミュニケーションプロジェクトを提唱しています。その中に

5つの事業がありまして、そのうち左端のロールモデルを提供することを目的としたポータルサイトの運営、それから多様な人が参加し生きづらさを受けとめる場としての、みみここカフェ、それから、研修や講演を行う事業、とりあえずこの三つで、今年度は市民活動げんき基金補助事業を申請しましたので、報告していきます。4 H e a r t s は、聞こえない聞こえにくい人たちが伝えたいが反映される社会を目指します。そしてそういった人たちの社会課題を地域や周囲の人を巻き込んで解決しています。それぞれ課題があるそうなかかかると思っています。当事者の課題としては、普段、お家を感じたり、またフリーです。或いは諦めてしまう。小さくなって、上任してしまうってから情報が得られないことでイエスとかノーの判断ができなかったり、自己決定自立を阻んでしまう。そういったいわゆるわかりやすい障害ではない、コミュニケーション障害や社会参画障害といえるかもしれませんけども、そういったことがあります。そして周囲の人の課題としては、身近でないから、なかなか自分事として捉えられない、だから当事者にどこまで伝わってるかわからなかったりします。自分事になっていないことは、こういった実態を知らないから、日本の難聴の方は、1430万人と言われていて、茅ヶ崎市に換算すると、2万7000人。難聴とまでいなくても、1人不安を抱えていたり、聞こえづらいと思う人は3人に1人。今はマスクをするようになって、そう感じている人は増えています。私たちはですねその実態を知ってもらうこと、そして対話を重ねて体験を通していく人間形成っていうことで、マガジン、ダイアログ、トレーニングについて活動しています。まずマガジンですが、みみところのポータルサイトですね。当事者でもある専門家の方に聴覚障害者の就労問題について書いていただいたり、聾の英語教育について書いていただいたりしました、また、当事者の周囲の先生だったりとか、そういった方々にたくさん寄稿していただきました。ただ、課題としてはですね、過去振り返って書いてもらう中で、辛い感情を思い起こされて泣きながら執筆する人とか、メンタルを崩してしまって、書けなくなってしまって、もう辞退しますという言い方も複数いらっしゃいました。

特にコロナ禍で、マスクをするようになり、ただでさえ困難なコミュニケーションがさらに困難だということで、その心を病んでしまう聴覚障害者が急増しています。メンタルサポートをしながらの支援が必要な状況でした。また、手話をメインで使う当社の場合は、日本語が第2言語でございますので、校正に時間がかかります。手話を翻訳しながら文字起こしするという作業が必要になってきます。非常に時間もかかっています。次にダイアログについてです。引き続き、ずっと実施している、みみここカフェですか、昨年6月にはNHK密着取材を受けました。常連さんで行って来て、その人たちが、今スローコミュニケーションの運営ボランティアとして、実施にやってくれています。大変幸いなことに、人を見守り応援しあっていく空気感ができています。そして、小学校2校の特別授業ですが、ブース出展とか、聴覚障害体験、砂嵐を流すためのMP3の購入等で今回申請しました。今年の4 H e a r t s は人間形成としてのプロの事業と、それから企業研修、力を入れていこうと思ってます。当事者意識を変えるのは、私自身もそうであったように、並大

抵のことではありません。サポセンの皆さまだったり、四條さまだったり、市川委員といった人たちをたくさん有して、当事者意識を増やしていけるようなまちづくりをしていきたいと思います。また、今年度、麒麟福祉財団助成金を活用して小冊子を作製しました。市内で配布しています。昨年、8ヶ月間に渡って、NPO 法人 ETIC の花王株式会社の起業塾の塾生として、学んできました。

8ヶ月間、4 H e a r t s に伴走支援してくれたコーディネーターさんの方、その方が、4 H e a r t s の理事になってくれてます。そして、もうひとり手話通訳者の方が理事になっています。

また、みみここカフェをここまで11ヶ月やってきたんですけども、常連さんができて、その常連さんがボランティアをしながらという感じで、そういった形に広まっていくプロセスを皆で共有しながら進めていくスタイルをとっていきたいなと思ってます。今後は事務局の体制強化が必要だと思っています。また社会起業家など、その他の意欲のある人たちとの横の繋がりも広げていきたいなと思っています。

スローコミュニケーションは、スローコミュニケーション×〇〇という事業を3回ぐらい実施できるかなと思っています。神奈川大学の共同研究は、点と点を線で結ぶような形で、町のコミュニケーションデザインをしていきたいなと思っていますし、また、コミュニケーション支援テクノロジー、例えば、音声認識もそうですし、あとスマートグラスとか、そういったことも、開発をしているような企業と連携していきたいと思います。こちらのイラストはですね、茅ヶ崎市在住の富生さまというイラストレーターさんに作っていただきました。そして、今年度、令和4年ですね、さらにステップアップということで、世界に向けてスローコミュニケーションのサイト制作をしていきます。以上です。ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしく願いいたします。

○山田委員長

はい。委員から質問がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。では市川委員お願いします。

○市川委員

すいません。事業に関わってしまっているので、質問というよりはコメントということで、お話をさせていただこうと思うんですが、今日ご参加されてる方が、那須さまの聞こえの状況について、どこまでご存知かっていうところがわからないんですが、生まれつき聞こえていないという状況から、口話教育を受けて、ここまでやってこられて、ここまで事

業をやりながら、ご自身のコミュニケーションっていう部分で、本当に信じられない努力をされているところですね。人工内耳をつけていながらも、おそらくそのすべて聞こえているわけではもちろんなくて、今もうまずその時点で、本当にすごいなというか、お話しするといつも感動してしまうっていうところなんですけれども、やっぱりこの今、那須さまがやられている事業っていうのが、聞こえない人の事業というのは、やっぱりその周りにいる人たちの、何ていうんですかね、啓発というか、やっぱり周りに私たちが本当に気づいていかなきゃいけないことなんだろうなっていうのは、本当に大切なことだと思うので、本当に多くの人に知ってもらえる必要があると思いますし、長く続けていくこともすごく重要なことだと思いますので、今茅ヶ崎市から始まっていますけれども、最後は世界までとおっしゃってますけれども、本当に世界中で同じような問題もあると思うので、小さな茅ヶ崎のまちからですね、少しずつステップアップしてやっていけたらいいと思います。この事業を理解するっていう上で、聞こえていない人、という、その聞こえていない人のためというよりは、今、4H e a r t s がやっている、この事業でもやっている、みみここカフェですね、これ私も参加させていただいているんですけれども、聞こえている人が参加することによって、すごく気づきがある場になっています。

参加者も毎回10人ぐらいなんですけれども、本当にそれに参加することで周りの私たちがどうあるべきかというようなことが毎回新しい発見があるので、どんな方でも参加が可能なので、ぜひ今日この場にいらっしゃる方も、参加していただくと良いなと思います。

すみません、長くなってしまいましたがコメントとさせていただきます。

○山田委員長

ありがとうございます。続いてあとお一方ぐらい大丈夫そうですので、いかがでしょうか。船山委員、お願いします。

○船山委員

タウンニュースの船山と申します。

最後の方にご説明があったところでお聞きしたいのですが、子どもの目線を加えたまちづくりというような視点での発表がありました。目標というか例のようなものがありましたら、ぜひ教えていただけたらなと思ひまして、質問させていただきます。

○一般社団法人4H e a r t s（那須）

ありがとうございます。私たちは、子どもが自分の意見を言って、それも子ども同士で会話をし、それを実現していくっていうことをやりたいとずっと思っていました。特に聞こえない人って、自分の意見がなかなか採用されないっていう経験をずっとしてるので、子どもたちにも、意見が採用されるっていう形を作っていきたいなと思っています。特に

平塚ろう学校とか、一般の学校に通っている人工内耳の子とかとどんどん繋がっていきながら、そういうことをやっていきたいなと思ってます。これはもうワーキングスペースとは違うチャレンジでやってるんですが、そういう、1人の思いにみんなが応援して、こうなんじゃない、ああなんじゃないと対応して、それを形にしていくっていう事業としてこれから先、出していこうと思います。場所は図書館を使ってやってみたいと思います。そして子どもたちも、意見を言うためには事前に知識を入れなきゃいけないんで、図書館の本を使って調べながら意見を言い合えたら良いと思っています。

○船山委員

ありがとうございます。

○山田委員長

それでは質問は以上です。ありがとうございました。

○事務局

4Hear tsさま、ありがとうございました。

それでは続きまして、夏休み子ども向けSUP体験会について、特定非営利活動法人SUPUスタンドアップパドルユニオンさまより、報告していただきます。ご準備をお願いいたします。

○スタンドアップパドルユニオン（太田）

スタンドアップパドルユニオンの太田と申します。よろしく願いいたします。

夏休み子ども向けSUP体験会ということで、昨年7月、8月を予定して、体験会を企画して進めました

事業の実施内容ですけれども、市内の小学生を対象とした体験会ということで、チラシ、ポスターを、サーフショップやコミュニティセンターの方にお送りして貼っていただいていますね、見ていただいて、ホームページとフェイスブックも含めて告知して、予定は3日間の日程を1ヶ月以内で、申込者が多数となって満員御礼となりました。

右側が夏休み子ども向けSUP体験会用に作ったチラシになるんですが、非常に多くの方に興味を持っていただいて、6月8日から7月5日までのタイミングで満員となりました。

それで事前準備としてですね、企画を進めるにあたり、いろいろご協力いただいた中から物品購入ですね、お子さんも使えるようなSUPと言われるスタンドパドルとかですねそういうもの、それからコロナウイルス感染症対策物品は、我々の団体の母体のサーフショップで使用しているものを活用しました。

それから子どもSUP体験会ということですので、インストラクターに関しては、夏休み

と海の海況に合わせて予定人員を増員して、お礼のお金も増やしながら進めました。それから当たり前ですが検温指示ということで、コロナ感染症対策も同時に海岸で実施しておりました。

実施場所としてはヘッドランドビーチTバーです。夏の期間3日ということで具体的な日程は次のページになります。

それぞれ1回当たり20名。年齢別の表がありますけれども、5歳から中学生までのお子さんに参加していただいて、比較的、小学校低学年のお子さんに多数参加していただきました。

写真にありますように、お子さんたちが集まって黄色いライフジャケットをつけて、スタンドアップパドルボードに乗る前にレクチャーをしながら、高校生のボランティアの人たちも集まってもらって、楽しく開催したという形になります。

事業の成果と今後の展開ですけれども、夏休みの時期、ご存知の通り茅ヶ崎の海岸は非常に人も集まります。

ただ、中でも波が少ない、比較的空いてる場所を選んで実施しました。

それからまた、茅ヶ崎での開催ということで、地元の子どもたちもですね、こういったイベントをよく見てですね、すぐに満員ということもあったんですが、同じ子が複数回申し込みしてきたということもあって、次回はなるべく、数多くのお子さんたちが参加できるように、少し工夫したいなとも思いました。

それからインストラクターの人員です。1回当たり6名と考えていたんですけれども、やはり波があったり、お子さんたちもスタンドアップパドルボードだけでなく海岸の波打ち際で遊んだりすることも考えて、もう少し人員を増やした方がいいかなと考えておりました。

それから学生ボランティアの方に来てもらったので、子どもたちとお話とかもですね、仲良く楽しく過ごしてもらえたようです。

それから費用ですけれども、1回500円ということが後程アンケートの結果もご紹介いたしますが、概ね好評であったらうなと思っています。

それから大きな反省点ですけれども、体験会の集合から開始時刻まで間延びしたことです。これは8時半に集合してそのあと、実際のその体験会の開始時刻、それから、レクチャーをして海に入るところが間延びしたりですね、それから、それぞれの班、子どもたちのバランスです。先ほど見ていただいた年齢も幼稚園生から中学生までいるので、そのあたりを事前にもう少しよく考えて、班決めをして、子どもたちに不安を与えないようにしていきたいと思いました。

それからインストラクターの人たちに対しても、なるべく実施内容をこちらの方から説明して、よりよい体験会にできるようにしたいと思っております。

それから、来年度以降ということで今年末になりますけれども、チラシ配布時にですね、茅ヶ崎を盛り上げる一つのSUPというものを活用するというので、もうちょっと

地域の方にも周知するように動きたいなと思っています。

それから前回は神奈川美化財団さんと連携して海のごみ拾いの冊子を配らしていただきました。同時にアンケートにもあるんですが、ビーチクリーンや海岸のごみ問題に関しても関心を持っていただけるように今年は進めていきたいと思っています。

また、ご参加くださった親御さんに向けて様々な項目を設けてアンケートをとらせていただきました。資料には全部入れましたが、下線を引いている部分だけかいつまんで進めたいと思います。

一つ目が、旅行もできなかった夏休みでしたが非常に楽しい思い出となりました。ということで非常に喜んでいただけたなと思っています。それから安全にも配慮していただきながらしっかりと体験できるということが夏休みで子どもたちを呼び込むポイントだったので、伝わってよかったなと思います。それから、なかなか経験できることでもないということで、スタンドアップパドルボードは体験会だと1回5000円以上したりするものになるので、1回500円でですね、子どもたちが休める夏休みに開催しました。そういった部分に関しては非常に有意義なポイントだなと感じました。それから、コロナで遊びに行かれない中、夏休みに思い出ができたということ。

あとは先ほどありました待ち時間を短くして欲しいということで、やっぱりお子さんは飽きやすい部分もあるので、なるべく楽しくできるように、集合時間から開始までを短くしたいなと思います。それからスクールに通わせたいとかですね、ビーチクリーンもできたらいいなとか、あとはインストラクターの数といった部分も少し心配という声もいただいています。

それから海になかなか入ったことがない子どもたちも今回参加してくれたので、SUPというものが茅ヶ崎の海を知る良い機会になったと感じます。

いろいろ安全面に気をつけながら、子どもたちが楽しく遊べるアクティビティとして茅ヶ崎の海を活用したSUPの体験会ということで、今年も含めて来年以降も、茅ヶ崎の夏の風物詩として、SUP体験会を毎年行っていけたらなと思っています。

我々の報告に関しては以上になります。駆け足になりましたが、どうもありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

それでは質疑応答に移ります。山田委員長よろしく願いいたします。

○山田委員長

委員から質問、コメントがありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。では坂田さんお願いします。

○坂田委員

はい報告ありがとうございました。茅ヶ崎の海を活かしたSUP体験ということで、本当に子どもたちが楽しめるイベントを企画してくださりありがとうございました。高校生のボランティアに集まってもらったとありましたが、こういった方なのでしょうか。

○スタンドアップパドルユニオン（太田）

具体的に言うと、星槎高校という大磯にある高校の、SUPなどの海のスポーツを楽しむ部活動がありまして、その部活動の中で、インストラクターとして教えるまでのレベルではないんですが、技術的にある程度SUPに乗れるような高校生に今回参加してもらいました。

○坂田委員

ありがとうございます。ボランティアで支えてもらえると子どもたちも楽しいと思いました。ありがとうございました。それからもう一つなんですけれども、結構参加者の皆さんのアンケートが細かくて、関心があるのですけれども、もう少し参加費用が高くてもいいのではないかと思います。私も最初500円は安いなと思ったのですけれども、やっぱりサポートする方々やインストラクターまでいらっしゃるので、今後これから続けていく際に参加費や費用で検討していることはありますか。

○スタンドアップパドルユニオン（太田）

一応体験会自体は、今年も500円でやるという方向で考えているんですが、その体験会の後にですね、例えば引き続きやりたい子どもたちに関して延長じゃないですけど、そういった部分でもう少しやりたい場合は、もう500円とか、あとは来年度に関しては、例えば1000円とか、そういったところ、内容をもうちょっと充実されることを考えています。具体的に言うと今回の体験会ですけども、そういう競走の時間を入れたりとか、そういった部分をこれから充実させていって、ある程度SUP以外の楽しみ方の一つを、この体験会の中に入れていて、もう少し付加価値をつけた上で、参加費を少し上げたらいいかなと考えてます。今検討中です。

○坂田委員

ありがとうございます。とてもすてきな企画だと思いました。ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。では市川委員、お願いします。

○市川委員

市川と申します。すごくたくさんのお子さんが参加したいということで申し込みがあったということだったんですけれども、実際にこの参加者募集の報告を見ますと、チラシとポスターと、地域周辺のサーフショップ、それからコミセンに配布ということだったんですね。

それと団体さんのホームページでの告知ですけれども、オンラインで告知をするっていうところでいうと、やっぱり、アンテナが立っている親御さんになると思うのですが、子どもたち自身が、興味を持つっていうところで行くと、ちょうど我が家がそれに当たりますが、親もあまり海に接していない家庭で、ただ子どもが海好きっていうパターンがあって、しかもその住まいが山側ってなってくると、なかなかその子ども自体が、サーフショップにちょっとこう、何かチラシがあったとかっていうところで、接点がないというのがあるので、あんまりたくさん応募があると、人数的にもキャパの問題があると思うので大変だと思うんですけれども、可能性として小学校へのチラシの配布であったりとか、そういうことができるより多くの方の目に触れて、子ども自身がやってみたいなっていう、自主的な参加欲というのもあるのかなと思うので、今後何か可能性があれば、小学校のチラシ配布なんていうのも視野に入れていただけるといいのかなと思います。以上です。

○スタンドアップパドルユニオン（太田）

ありがとうございます。今年はぜひ、多くの小学校の皆さんに知っていただけるように、注力したいと思います。よろしくお願いします。

○山田委員長

そろそろ時間でしょいか。

では質疑応答は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○事務局

それでは続きまして、～市民活動団体に IT 伴走する～Web サポーター育成事業について、NPO 法人セカンドワーク協会さまより報告していただきます。ご準備をお願いいたします。

○セカンドワーク協会（四條）

NPO 法人セカンドワーク協会の四條と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、我々の PR を簡単にご説明させていただきます。シニアだとなかなか望む仕事ができないのと、あと地域の社会課題を解決しようという市民活動団体さんがなかなか情報発信のための Web を持てないという現状があり、若いクリエイターさんの力を借りながらですね、とんがった IT シニアに集まってもらって、市民活動団体さんや NPO 法人さんに Web を提供しています。そういうことをミッションにして、2019 年にスタートした団

体です。現在の活動状況ですけれども、4月の段階で42名の会員がいます。会員自身、ウェブサイト制作をやっておりますが、皆さま方に受託いただいたウェブサイトを、毎月2回の勉強会とかをやりながら活動しています。実績ですが今日発表されました、4 H e a r t sさまのサイトをやらせていただいたり、今年度ですね、市民活動げんき基金の補助を受けているマザーアース茅ヶ崎さま。茅ヶ崎の防災情報発信をされています。それと、藤沢の保育園。それから、湘南松原を世界遺産にしようという団体さま。それから、今日、発表がありましたママほぐさま、そしてわんにゃんマルシェさま、最近では現代美術作家のウラサキさまという方が藤沢におられまして、社会的な意味があるだろうということで、そういった方々のサイトを制作させていただきました。そして最近、今年の3月末にはですね、まちぢから協議会連絡会さま。13地区の協議会さんがあるんですが、そのサイトリニューアルを受けさせていただいて、3月31日に公開させていただいております。今回の報告に入らせていただきます。セミナーですね。WEBサポーターを育成するセミナーということで実施させていただきました。連続でやらせていただいて、計6日間ですね。市民活動団体さんのウェブサイトをつくり上げました。ただですね、少しコロナで集客が芳しくなくてですね、昨年度8名参加いただいたんですけども、今年度は4名の参加をいただきました。

二つのウェブサイトを作り、一つのウェブサイトのリニューアルをしました。これどちらも公開レベルにまだまだ達してなくて、今日現在でも作業中ということで、受講生の方がNPOに参加していただいて、今もリニューアルで、打ち合わせを続けています。また、アンケートを3名の方に書いていただきました。全く初心者だったけども、学べて、難しい内容だと思ったけども、よくわかったよという意見等がありました。ただその中で、進行のスムーズさというところに少し課題があると言われました。

結局お1人の方が非常に優秀な方で、非常に内部の方に質問されるんですね。それに講師が引っ張られる。その場で少し答える時間に他の受講生がついていけないといった状況がありました。課題としては、進行ですね、そういう難しい話を後ろへ回すとか、講師の対応にも課題があって、改善の余地があります。今後の展開なんですけども、コロナ禍においてですね、昨年度よりも集客ができなかったのが、結果的にちょっと残念だったんですけども、例えば、ウェブサポーターの育成について一定の成果があったかなと思っております。今回の反省点について、講師スタッフで振り返り結果を反映してですね、カリキュラムとか教材の内容の進行方法とか、我々のサンプルWebサイトの完成度をさらに向上して、今後の活動に活かしていきたいなと思っています。

今後もウェブサイト提供や支援を通して、社会課題を解決するために活動されてる市民活動団体さまに対してですね、裏方として支援伴走を継続していきたいと思っております。本当に皆さん頑張っておられるし、各団体さんの役に立てたなと思っています。今後とも地道に活動を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

○事務局

それでは質疑応答に移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

はい。では委員から質問がありましたらお願いします。いかがでしょうか。貴島委員お願いします。

○貴島委員

うちのまちぢから協議会のサイトがやっと3月末に公開されまして、ほっとしているのですが、やっぱり我々まちぢから協議会は13地区でやっているのですけれども、実際全部ができてるわけではありません。それプラスですね、135の自治会というのもありまして、まちぢから協議会の方へ、各自治会さんがお願いしてやるっていう今立場で我々の継ぎ目意識の方もやってるのですけれども、やっぱりこれ135っていう自治会がありますのでその中でも、こういった勉強をして、ちゃんとサイトができるようにした方が、世の中皆さん、サイトを見てらっしゃる方もいらっしゃるんで、スムーズにいったらと思うんで、そちらの方がいいのでね、お声掛けとかやってみたらどうでしょうか。お願いします。

○セカンドワーク協会（四條）

ありがとうございます。少しご説明させていただきますと、まちぢから協議会さまの中にあるホームページ委員会は、その下に作業部会という非常にウェブのことがよくわかっておられる6名の方のメンバーの部会があります。事務局長の山田さんの方と今週の水曜日にも打ち合わせしましたが、我々の立場としてはその作業部会の皆さまを支援していこう。そして各作業部会のメンバーの方が、その各地区の自治会の方々を盛り上げていくという役割分担かなと思っております。継続的に今回作成させていただいたサイトを運用させていただくということになっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○貴島委員

私も一応ホームページ委員会の一員になってるのですが、まちぢから協議会の方からも、作業部会に参加させていただいてます。確かに優秀な方がいっぱいいらっしゃいますけれども、自治会が私の方だけでも10ありまして、あと、いろんな団体さんもいらっしゃいますので、1人の負担はかなり大きいかと思ってね、本当にいつも申し訳ないと思う。私もいろいろと危惧するところですので、何とかみんなに頑張ってもらいたいですけどもって、やっぱりあれですかね。そういう方々の勉強会というのも少しレベルを上げてもらったほうがよろしいでしょうかね。

○セカンドワーク協会（四條）

おっしゃる通りだと思います。いろいろそういうチャンスを広げていくと、いろいろ人材増えていくと思いますし、茅ヶ崎は、そういうことできる方が大勢おられると思うんです。ですからそういった方のモチベーションをどうやって上げていただくかっていうところが、大事にするかなと思います。

○貴島委員

そうですね。今後とも、ご協力をよろしくお願いします。ありがとうございます。

○山田委員長

続きましていかがでしょうか。では、坂田委員、お願いします。

○坂田委員

精力的に活動されていて、大変すばらしいなと感じます。事業はウェブサポーター育成事業ということでしたが、団体の中で、普段から活動されているスタッフは何名いらっしゃるのでしょうか。また、今回お1人が団体の会員になられたということですが、今後も団体からのニーズがどんどん増えているため、メンバーを入れていかなきゃいけないということになってくるだろうと思いますが、今後の展望についてもお話いただけたらと思います。

○セカンドワーク協会（四條）

まずですね現在42名の会員がいるんですけども、実際に幹部として、NPOをまわしている役割をしているメンバーは大体10名ぐらい。その中の、6、7名はウェブを実際にさめます。それで、自分のホームページだけではなくて、市民活動団体さまのサイトをつくり上げるという。あるいはその保守運営をするということに関わってるメンバーが6、7名います。ただ、なかなかそこが急激に増えてるっていうわけではなくて、我々の事業として非常に大きな課題です。とがったITシニアさんがたくさん増えて、他の市民活動団体さんのサイトを作ってあげるよっていう方を常に募集しています。昨年度、多くのメンバーの方が何人か入ってきておりまして、そういう意味で実力がついていっているとは思いつつも、やはり大きく広報して、大きく集客して、サイトをたくさん作っていくという実力はまだないかなという。

○坂田委員

ありがとうございます。私はすごくいいなと思っています。こんなのができるよっていうところが具体的に示されてるのはすごく心強く思いました。ありがとうございます。

○山田委員長

それでは時間が来たようですので、質疑応答は以上です。

○事務局

セカンドワーク協会さま、ありがとうございました。

以上で予定しておりました6事業の発表が終了いたしました。

皆さまありがとうございました。

それではこれより、総括質疑に移ります。

総括質疑は、市民活動のさらなる発展や市民活動げんき基金補助制度の向上などを目的に、委員の皆さま、団体の皆さま、傍聴の方々から、日頃の活動の中で感じられることなどについて、忌憚のないご意見を述べていただくとともに、会場内で意見交換をしていただくものです。総括質疑の進行につきましては、山田委員長と交代させていただきますが、終了の時間の目安としてはですね予定通り15時30分とさせていただきたいと思えます。

それでは委員長よろしくお願いたします。

○山田委員長

残り22分ほどということで、進行させていただきたいと思えます。皆さま発表ありがとうございました。

こういった集まって話をする機会ですので、それぞれの団体の成果を発表していただくことも大事ですが、できれば横の繋がりを上手く意識した話し合いができればと思っております。

当初の申請の時を振り返りますと、皆さまが茅ヶ崎市げんき基金補助事業に申請するプレゼンテーションの時に、この総括質疑で、横の繋がりを持とうまく進めていくことが自分たちの団体にも利点大きいこと、そして、まちづくり全体にも利点大きいことをお話し下さいました。それゆえ、こういう総括質疑を大事にしながら活動を展開したいという話をしたことを、このような機会の度に思い出します。

その意味で、団体間の横の繋がりの成果もあったという報告もあり、そういったところでの実感や感想をお話し下さいませんか。良いことも、それから課題も含めて、感じたところをお聞かせいただくところからスタートできればと思っております。

もちろん、どんな話題からでも結構ですけれども、基本的なテーマとしては、うまく横に繋がるとか、水平的な連携を図ろうとした結果をご紹介下さい。こんなふうによかったですとか、こんなふうになんか課題が見えなかったとか、連携は難しかったですといった感想でも結構です。お聞かせいただけないでしょうか。

松本さんお願いたします。

○ふらっと南湖（松本）

皆さん、今日素晴らしく聞かせていただきました。ありがとうございます。茅ヶ崎の活動ということで、やっぱり地域性っていうものがすごくいいなと思ってるんですね。今はオンライン上ですが、オフラインでも会えるというのが茅ヶ崎ならではの良さがあるので、直接会える機会であるとか、そういう形でコミュニケーションできたらいいなと感じました。

この1年、例えば、ママほぐさまとも何度かお会いしたり、様々な拠点になる場所もいろいろあって、Cの辺りという言葉も出ましたが、南湖ハウスも繋がり場所として使えますので、立候補したいなというような形を思いました。そして、公民館の役割ってというのがやっぱりそういう地域コミュニティの拠点だと思うんですけど、どうしても、安全面に触れてしまって、なかなか使えないっていう状況がやはり一番に来てしまっていますが、やっぱりそこら辺は行政さんの力も必要だし、社会教育課もありまして私の今アプローチしてるところもあるんですけど、やっぱり行政も連携もぜひとっていただきたいなというのが私の願いです。ありがとうございます。

○山田委員長

いくつか重要なご指摘がありました。団体がコンテンツで繋がる場所はいっぱいあるんですけども、むしろその場所とか拠点を大切にしていきたいというのが1点目でした。それから、地域のコミュニティセンターなどの活用方法についても工夫できる点がありそうです。こうしたところでも自治体と市民が連携して、自治体の方にもうまく横の連携をとってもらえるようにしていけば、そういう連携体制をますます作ってもらえると感じました。ありがとうございました。ということで、どうぞ引き続き気が付いたり思ったりしたところが何かありましたら、次々と連鎖的にお話いただければと思っております。いかがでしょうか。どなたでも結構です。あるいは全く別の点でもかまいません。繋がりができていなかったですといった話題でも結構です。市川委員お願いします。

○市川委員

はい。ありがとうございます。時々思うことなんですけれども、ご自身の団体で、拠点を持っていらっしゃる団体さんに関しては、大体何かイベントをやる場合、ご自身の場でやられることが通常だと思います。なんですけども、あえて、自分達の場所じゃないところで、自主の活動のイベントをやられたりすることで、本当にその場で新しい出会いがあったりだとか、繋がりができたりすることがあるかなと思うので、逆に、ご自身の場所を持ってらっしゃる団体さまもあえて全然違う場所で、普段は行かないような場所で、活動してみると、本当に思っていなかったことが起きたりする経験私もあるので、ぜひ、少し視点を変えてというか、場所があるからといって、ご自身の場所ではなくても全然違うところでやってみるっていうのもすごく、ポイントかなと思いますので、そのあたりチャレン

ジしてみていただけると良いかなと思いました。以上です。

○山田委員長

場所を変えると見え方が変わるということもありますし、同時に、自分たちの活動の内容を客観的に見ることができるといったような成果も、今のご発言の中で含まれていると思います。そういったことで、あえて異業種というかですね、異分野に飛び込んでみて、楽しかったとか、良かったっていう経験をお持ちの方がいらっしゃれば、お話いただきたいのですが、いかがでしょうか。今のような点でも結構ですし、それから横の繋がりについて団体の皆さまから何か感想などがあれば、お願いします。この1年間の横の繋がり活動として、面白かったとか良かったですというところがあれば、お聞かせいただけないでしょうか。いかがですか。では川上さんお願いします。

○わんにゃんマルシェ（川上）

横の繋がりとは違うかもしれませんが、茅ヶ崎市市民活動げんき基金補助事業で知り合った団体さまのホームページだったりとか、インスタグラムだったりとか、フェイスブックだったりとかをよく見るようになって、そうすると、どこそで何かイベントやっているな、こんなことやってるなとか、事業を知るきっかけにはなってると思いますね。お互い応援し合う、団体や事業内容を発信し合うといった仕組みがあると、さらに広がっていくのかなと思います。また別件ですが、わんにゃんマルシェでは命の教室っていうことで、今までは犬猫、動物関係なんて外で行うイベントと思っていましたが、命の教室で犬や猫を連れていかななくても、動画というコンテンツを持って回るっていうことで、室内でと考えてはいるんですね。その時に、やっば公民館とかコミセンさんとか、営利目的の方は駄目ですよっていう、結構縛りがあると感じます。営利目的でやるわけではありませんが、ただ団体を運営していくのに、その運営費みたいなのをどうやって捻出していくか、今回は茅ヶ崎市市民活動げんき基金から支援いただきました。でも将来的にそれを自分たちでまわしていかなきゃいけないってなったときに、その運営費用をどうするのかみたいところを、例えば、教室で参加費をいただくという話になってると思います。そういう時に、公的な場所での開催っていうのがなかなか難しくなってくるのかなと思って、それが少しいろいろではあるとは思いますが場所によって、そういう基準とかっていうのも少し、市側のハードルを下げしてほしいと感じました。

○山田委員長

いくつか自治体に対するリクエストもありました。貴島委員、お願いします。

○貴島委員

先ほどコミセン関係についてお話がありましたが、参加費を取ることは可能です。特にで

すね参加費が営利目的ではなくて、少額、1000円以下だとか、そういう額であれば、以前でも、そういうことをやっていますので、特に問題はないので、近くのですねコミセンの方にお問い合わせしてみたらよろしいかと思います。

○わんにゃんマルシェ（川上）

ありがとうございました。

○山田委員長

その辺も相談先のチャンネルが広がってくれば、地域での可能性があるということでしょうか。続いて、今、発表者PCのところにご登壇いただいている高村さんお願いします。

○ママほぐ（高村）

ママほぐの高村です。今日は本当にありがとうございました。横の繋がりというところでは私たちは完全に初めてポータルサイトを作った点で、NPO法人セカンドワーク協会さまにべったりやっただいて、本当に自分たちではできないことを成し遂げられたということで、大変感謝していますので、本当に茅ヶ崎市市民活動げんき基金補助事業とNPO法人セカンドワーク協会さまにはとても感謝しています。ありがとうございます。あと、横の繋がりということで、先ほど南湖ハウスの松本さんもおっしゃってた通り、私もげんき基金を通して里親さんと里子さんについて発表会で知ることができて、それまでやっぱり他人ごとでした。どこか聞いたことあるけれども他人事だったというのが、実際に松本さんに会って、里子さんと一緒にご飯を食べたり、うちの子どもたちも連れていったりとか、そのようにしたら何かどんどんどん、社会の課題なんだろうなと思って、でもどこか他人事だったのが、自分事になったという経験があったので、団体間でどんどこシャッフルしていて、どの団体も社会的課題があってそれを解決するために、市民活動をされてると思うんですけど、それを解決するために、どんどんシャッフルしていけば、自分事に置き換わって、自分の団体の持つ強みっていうのが、他の団体に活かされたりするので、どんどんシャッフルしていけばいいと思います。ありがとうございます。

○山田委員長

ありがとうございます。ちなみに、高村さんがそうしたシャッフルを積極的にやってみようと思われた、最初のきっかけは何だったのですか。

○ママほぐ（高村）

そうですね。去年の厚生労働省の不妊治療・不育症の方のピアサポート研修会というのを受けたんですね。その中で里親、里子の話もありました。その中で、日本の親元で育てられない子が行くところの施設がほぼ一択、それしかないっていうような感じで、他の諸外

国などの発展してるところとかは、そっちの方がむしろ稀で、子どもが家に行くんです。ちゃんと家庭で育てられるのが普通で、日本みたいに、親が育てられない子イコール施設の子っていうことにはならないって言ってそれはその、世界とか批判を受けてるっていうのを、厚労省の勉強会資料私はそれがすごく衝撃的で、自分の小学校とかでもやっぱり施設の子とかもいたのですけどやっぱり施設から来てるんですよ。なので、それが当たり前っていうふうには思ってたのは、実は全く当たり前じゃなかったっていうふうな、ちょっとガツンと頭を殴られたような経験があって、それで南湖ハウスに興味を持ったのがきっかけです。でも一番のきっかけは、実際にその里子の活動されている松本さんが市内にいらっしゃったことだと思います。

○山田委員長

そうした、人となりがわかっているとか、それから情報が繋がっているとか、そういったところは事業の中で非常に大きかったということですね。ありがとうございます。続きまして、どうぞ他の団体の方、他の話題でも結構ですので、もし何か、感想や別の話題でも、せっかくの機会ですからお願いします。いかがでしょうか。それから、今日、話題として多かったのはもちろん運営費やお金の集め方ということでした。ですが、コロナの状況変化を通じて、人の集め方とか人の繋がり方というところは、いろんな団体が試行錯誤してくださったおかげで、新しい発見とか成果がたくさんあったと思います。こうした点を繋がりというふうに見ることもできると思います。市内における人の繋がりですね。人の集め方という言い方が悪いかもしれませんが、人と人との接点づくりで、難しさや感想、よかったことなどでも結構です。いかがでしょうか。ここからは、ディスカッションテーマはフリーとします。もちろん、身近なもっと別の話題でも結構です。いかがでしょうか。どうぞ高村さんお願いします。

○ママほぐ（高村）

すみません。スタンドアップパドルユニオンさまに感謝というかとてもすばらしい活動をされているなと思ってまして。私、茅ヶ崎に引っ越してくる前に沖縄のサーフショップに勤めていて、その時にサーフィンの体験やSUPの体験会をやったのですけれども、やっぱり金額が1万円を超えてきて、地元の人たちが全く参加されなかったということがあって、本当にこの500円という価格でやられてることが本当にすばらしいなと思ってまして、沖縄にいたときは地元の人たちが誰も参加されなくて、でも住んだり、ニュースとかで見たりすると沖縄はすごく貧困の差が激しくて、お金のない家庭の子どもさんたちもすごくいっぱいいて、夜中の9時とかでも平気でコンビニとかに居たりとか、学校が終わっていくところがなくて、あとはその海岸にみんなが集まってゲームしてるみたいな、もうすごく目にしていて、そこへ、自分の勤めているところで、低額でサークル体験っていうのを地元に向けてやろうということでやり始めたら、何人かの子が来てくれて、その親御

さんから感謝されたというか、お子さんたちも喜んでくれるというのがあったので、500円でやるっていうのは、お金が出せない親御さんとかお子さんにとっては大事なので、できるだけ料金を上げずに500円のままやっていただけると嬉しく思います。あと自分も市内の子ども食堂とかに参加して、子ども食堂にご飯食べたりするんですけど、今月は貧困家庭とか、コロナで困った家庭限定だよみたいな月があったりするんですね。なので、そういうのもいいんじゃないかなっていうふうに思います。今回はちょっと困ってる家庭だけ500円でやるよっていうような、こども食堂の方がやられていたので、すごくいいなと思うので、いかがでしょうか。

○山田委員長

最初のその辺の努力とか難しさというか、むしろ感想を教えてください。いかがでしょうか。

○スタンドアップパドルユニオン（太田）

ご評価いただきありがとうございます。お金のことで言うと、今回500円っていうのはおっしゃる通り、とても破格で、報告書にもあるように、我々が拠出してる金額もかなりあります。ただやっぱり茅ヶ崎の土地柄からというんですかね、今回の集まってくれた子どもたちの例えば親御さんとか、地域の住民の方とか、それこそ飲食店とかですね、そういったところとの連携とまではいきませんが、今日、子ども体験会があるんで、お客さん来るかもよみたいな話の繋がりとかですね。

実際に今回支援いただいているもの以外で、お弁当を例えば出したりとかっていうところでその地域の方との繋がりができることで、我々の本業というか、いわゆるサーフィンの体験会とかSUPの大きな大会とかですね、そういったところの繋がりが、そういったところの一つ一つに繋がっていくっていうか、そういった観点で我々はやってる部分もあってですね。この体験会だけでペイするとはあまり考えてなくて、業務的にはもちろん茅ヶ崎をっていうふうな一つとして、せっかくだけにその支援金をもとに、なるべく安全に僕たちの茅ヶ崎の地でやるっていうところが、すごく大きな目的になってるので、それを何か理解しただけの人がいるっていうのは非常にうれしく思いました。それで、これからもその運営費っていう意味で言えば、茅ヶ崎市市民活動げんき基金も限度がありますので、これから体験会を続けるっていうのは、多分かなりハードルが高いなとは思ってます。ですので、その来年再来年以降とかっていう部分に関しては、やっぱり継続したいと思ってますし、その部分で、発表の時にもご意見いただいた通り、1000円なり2000円で、あとはそこでの地元のインストラクターの方にもちょっとボランティア的に入ってもらうという部分も含めて、継続していくことが風物詩的な、SUPを広めてみんなで楽しく茅ヶ崎を盛り上げるみたいな形で、継続して行けたらいいなというのが今、我々が思ってるところでございます。以上です。

○山田委員長

ありがとうございます。茅ヶ崎ならではのものと、普遍的な課題についての共通点が見えたということでした。

すいません。ちょっとだけ延長さしていただいてもよろしいでしょうか。

那須さん、今の話で、那須さんの団体も普遍的な話題を茅ヶ崎に根を張って、根を下ろして展開されています。そうした茅ヶ崎ならではのよさというか、そのような普遍的な話題について、茅ヶ崎で活動することの素敵さ、今までのよかったことについて、ご紹介いただけませんか。

○一般社団法人4Hearts（那須）

そうですね。様々な方に応援していただいて今があると思います。例えば、サポートセンターから始まって、Cの辺りになってという感じで、去年、茅ヶ崎青年会議所に所属させていただいて、そこの繋がりもやっぱり広がっていったし、その中には、聞こえない人に初めて会った、那須さまにあったからそういうことを考えるようになったと、たくさんの方におっしゃっていただいて、そこからどんどん広がっていったかなと感じています。聞こえない人のことがわかったっていうだけじゃなくて、こういうことにもしかしたらこの人が困ってるかもしれないのっていう、聴覚に関係なく、幅広く想像できる人が増えてきたような気がします。ちょっと偉そうな言い方だったんですけど、それってすごく大切なことだと思っています。特にコロナ禍で、人との距離が広がってしまった。オンラインとか、実際に目で見て話をするっていうのはまた別の文化が浸透してきている。

そこを改めて、むしろ人と人の繋がりっていうのは大切だよねっていうことを、スローコミュニケーションと言ってるわけですけど。

そこで、私たちは、スローコミュニケーションと何かを掛け合わせていくことで、広がっていったらいいなと思っています。なので、こういうことができるんじゃないかと思う方がいたら、声をかけていただけたらなと思います。

○山田委員長

このような繋がりを実践できる地域というところも茅ヶ崎の特徴で、この辺は冒頭に松本さんがお話くださった、茅ヶ崎ならではのといったところが、繋がってるような感じがいたしました。

それから最後に、まだ四條さんからお話をいただいているのでうかがいます。そうしたところで、中間でつなぎ合ってる、団体と団体の活動の仲人役みたいなところをサポートされているのが貴団体ですね。茅ヶ崎ならではの、仲人さんとしての感想とか、今後のことについてのお考えを、最後にお聞かせください。

○セカンドワーク協会（四條）

我々が活動を始めたのは本当にまさに益永さまにサポートいただいたことがきっかけです。ホームページってすごく面白いので、ひょっとしたら何かお役に立てるんじゃないかなっていうことで、今始まったんですけど、そのNPO化したほうがいいよって、益永さまにアドバイスをもらってスタートしたわけですね。

これまで我々も本当にありがたい経験をさせていただいたんですけども、やはりサポセンで繋がって、那須さまもそうですし、皆さま、やっぱりサポセンに参加される方と、サポセンさまがつかないでいただいている、こういう成果が出てるといのがものすごく実感としてあります。人と人の繋がりが、成果を産んだと思います。そうすると、やはりぜひ、茅ヶ崎市としても、増ふやしていただきたいし、それはハード的なものってこともあるかもしれないんですけど、ソフト的なイベントかもしれないし、そこはぜひ引き続きご支援いただけると嬉しいなと実感しています。

○山田委員長

ありがとうございます。そのようにお話いただいたのでサポセンのみなさんから、最後の最後にいかがでしょうか。中野さんがカメラを付けてくださったので、お願いしていいでしょうか。

○茅ヶ崎市民活動サポートセンター（中野）

非常に先ほどから皆さま本当にありがとうございました。素晴らしい発表ご報告で、私自信も勉強になりました。本当にサポセンのことを知っていただき、ありがとうございます。サポートセンターをこれからも使っていただきたいなと思いますし、やっぱり、今日の話聞いて、ひとつ反省なのは、すごく限られた人たちだけのシェアの場になってしまっていて、非常にもったいないなと思っていました。多くの人にサポセンを知っていただきたいですし、皆さまの活動を知っていただきたいですし、これから何か始めようという方も、こういった活動の場を活用していただきたいなというふうに変更して感じましたので、これはサポセンのアピール不足ですけども、頑張っってこういったところの広報をさせていただきたいなと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。大幅に時間を超過してしまいましたが、これで今日の発表の6団体の方には一言ずつお話いただいたように思います。こうした蓄積した情報を、ぜひシェアして次の展開につなげていけるような、こういったことも継続的にやっていくことができると感じました。もちろん、団体の方はいろいろと感想があげれば、事務局を通して、委員会にお伝えいただければと思います。委員はこの後、評価書を作る作業があります。またみなさまと、コメント内容を相談したり、自分のコメントを提案したりする

機会があります。今は限られた時間でしたので、話せなかったこともあるかと思えますけれども、引き続き、そうした情報のコミュニケーションは、続けさせていただければと思っております。総括質疑は以上です。皆さまありがとうございました。

○事務局

ありがとうございます。今、山田委員長より、まとめの言葉をいただきましたが、閉会にあたりまして、山田委員長から一言ありましたらお願いいたします。

○山田委員長

そうですね。今のところのお話で、これから委員会の中では、最後に皆さまへのコメントや評価書類をまとめる段階になります。そこでいろいろお話をさせていただければと思いますが、今日いろいろお話を伺っていると、繋がりを作るとか人を集めるとかお金を集めるとか、情報を交換するとか蓄積するとかといったような話題が多かったように感じます。これらは皆さまの活動の中で、茅ヶ崎への落とし込みの工夫や努力として、それがそのまま実は茅ヶ崎らしさになるということ、とくに冒頭の松本さんのご発言テーマで、はっと気づかせていただいたところがありました。こうした市民活動の、それぞれの皆さんの落とし込みの工夫とかチャレンジが、これが溜まっていくことによって、改めて茅ヶ崎らしい取り組みとか茅ヶ崎らしい雰囲気というのが、言葉として整理されていくということが実感できました。とてもよい勉強をさせていただくことができました。ありがとうございました。引き続き、このような形で、皆さまとディスカッションできればと思います。大変楽しいものですし、よい交流にな琉ことがわかります。このような機会に、今後も、ぜひ参加していただければと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

○事務局

山田委員長ありがとうございました。

以上をもちまして、令和3年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告会を閉会いたします。

会場に基金の募金箱を設置しておりますのでご協力をいただけますと幸いです。本日は長時間にわたりありがとうございました。最後に、委員の皆さまにご連絡いたします。本日、ご記入いただいております評価書につきましては、お手数ですが、24日火曜日まで、事務局まで提出をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。